

在外日本古美術品保存修復協力事業 (②修04-08-3/5)

目 的

海外の美術館、博物館が所蔵する評価の高い作品の修復に協力し、併せて対象作品を所蔵している博物館等と共同で、保存修復に関連する研究を行う事業である。平成3年度から絵画を対象に事業を進めてきたが、平成9年度から工芸品など欧米の修復技術で修復の困難な分野にも協力対象を拡げた。

本事業では立案のために、欧米の美術館、博物館にて作品調査のほかに修復技術に関する討議を行い、併せて輸送手続きに関する協議を行っている。また、修復内容の検討、修復作品の写真記録の作成および整理・保存、輸送手続きに責任を持って当たっている。

この修復協力事業が契機となって、国内外で所蔵の日本古美術品に対する関心が新たに高まりつつあり、日本古美術品を所蔵する博物館の間でネットワークが構築されつつある。さらに、文化財保存の専門家の交流も促進され、わが国の文化財修復技術の普及と理解に対し効果をあげている。

概 要

平成20年度は、10館10点の作品（絵画5点、工芸品5点）を修復した。うち工芸品1点が19年度からの継続、2点（絵画1点、工芸品1点が海外での修復（◆印。このうち絵画1点は2年計画の1年目））。

〈絵画〉

(1) 「松に孔雀図屏風」	6 曲 1 隻	グレーター・ビクトリア美術館
(2) 「星曼茶羅図」	1 幅	バンクーバー美術館
(3) 「虫歌合絵巻」	1 巻	ローマ国立東洋美術館
(4) 「遊女立姿図」(宮川長春筆)	1 面	キョッソーネ東洋美術館
(5) ◆「達磨図」	1 幅	ケルン東洋美術館（2年計画の1年目）

〈工芸品〉

(1) 「住吉蒔絵文台」	1 基	ヴィクトリア&アルバート美術館
(2) 「花鳥紋章蒔絵楯」	1 基	アシュモリアン美術館
(3) 「近江八景蒔絵香棚」	1 対	市立ヴェルケ・メディアチ博物館（2年計画の1年目）
(4) 「楼閣山水蒔絵箱」	1 合	オーストリー応用美術博物館（2年計画の2年目）
(5) ◆「花樹鳥獸蒔絵螺鈿洋櫃」	1 基	ケルン東洋美術館（3年計画の3年目）

平成20年度、工芸品の事前調査はチェコ外務省、チェコ国立美術館、国立ナーブルステク博物館、デンマーク国立博物館などヨーロッパで8館21点の調査を行った。また、海外での修復アトリエに使用しているケルン東洋美術館では漆工品修復について、ドイツ技術博物館では絵画修復についてワークショップを開催した。また、平成19年度に修復した絵画、工芸品の修理状況をまとめて「在外日本古美術品保存修復協力事業」の報告書を刊行した。なお本事業は、財団法人文化財保護・芸術研究助成財団より助成を受けた。

報告書の刊行 1件

- ・『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書 平成20年度（絵画／工芸品）』 235p 東京文化財研究所 09.3

研究組織

○川野邊渉、中山俊介、北野信彦、加藤雅人（以上、保存修復科学センター）、北出猛夫、後藤嘉信、高橋直久（以上、管理部）、中野照男（副所長）、田中淳、津田徹英、勝木言一郎、塩谷純、綿田稔、皿井舞、江村知子、土屋貴裕、城野誠治、鳥光美佳子（以上、企画情報部）、清水真一（以上、文化遺産国際協力センター）